

未来を学ぶ

- 平成27年度～30年度にかけ、教育体制の刷新と施設整備を実施
- 5つの経営学科(水田、野菜、果樹、花き、畜産)体制により実践的な教育を強化
- 農業の成長産業化を支える強い営農意欲や経営感覚を身につけた卒業生の輩出を目標

■ 農業経営の実践を学ぶ教育を深化

◆ 責任分担管理体制を導入

2年生時に、水田、園芸ハウス、果樹、家畜等の農場区画を自ら担当し、生育や気象に合わせた生産管理を実践。

◆ 教育科目を先進化

先進的な農業者や外部講師等の教授陣により、タイムリーかつ先進的なカリキュラムを実現。

◆ J G A Pを取得

地域のモデルとするため、農業生産工程管理のJ G A P認証を平成30年に取得(米、トマト、ブドウ)。



法人就農を視野に整備した畜舎



水田フル活用を学ぶ
地下水水位制御システム(フォアス)導入



外部講師による農業経営講座



野菜・花きの技術習得のための環境制御施設



高品質・高収量を目指すJGAP認証トマトの栽培



知事へのJGAP認証ブドウの収穫報告

■ 流通・販売分野の教育を強化

農産物の商品化、流通、販売、さらには6次化を見据えた加工実習や校内直売施設「アグリハウス万菜」において、年間7回程度、直売実習を実施。



アグリハウス万菜での直売実習

■ 海外農業研修

国際化に対応した幅広い視野を身につけるため、経営研修の選択科目として、1年生を対象とした海外農業研修を実施。

- 平成29年度ニュージーランド (H30.2.25～3.3)
- 平成30年度タイ (H31.3.17～3.22)
- 令和元年度ニュージーランド (R2.3.15～3.21)



キウイフルーツ農園での研修

■ 進路教育を充実

- 就農目標(自営・雇用)に対応した就農者養成講座を実施。
- 就業に向け、学生1人1人にあつたサポートを実施。



雇用就農に向けた農業法人説明会